

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

|            |            |  |      |     |
|------------|------------|--|------|-----|
| ※受理番号      | 学 校        | 教 科  | 種 目  | 学 年 |
| 102-271    | 高等学校       | 家庭   | 家庭総合 |     |
| ※発行者の番号・略号 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名  |      |     |
| 50 大修館     | 家総705      | クリエイティブ・リビング<br>Creative Living 『家庭総合』で生活をつくろう |      |     |

### 1. 編修の基本方針

教育基本法等に示されている教育の理念をふまえ、生徒が未来社会を切り拓くために必要な資質・能力を確実に育成して、生涯を通して「生きる力」に必要な家庭科の知識・技術の習得をめざすとともに、自立と共生を兼ね備えた自己の生活や社会を主体的に創造する実践力のある、心身ともに健全な人間の育成に寄与する教科書をめざしました。

- ◎**自己実現**を志向して生活を主体的に創造する力を付けることを教科書全般にわたって配慮する。
- ◎**男女がともに**理解し合い、協力し合って、これからの家庭や社会を築くことをめざす内容にする。
- ◎子どもや高齢者、障がいがある人々との関わりや福祉について考え、**ともに生きる**生活を築くことをめざす内容にする。
- ◎社会の変化に対応して自立した生活を創るために必要な**基礎的・基本的な知識・技術**を確実に身に付けることができる内容にする。
- ◎歴史の中で培ってきた衣食住に関する生活文化を学び、自ら**文化の継承と創造の担い手**になる内容とする。
- ◎**持続可能な社会**をめざして、地球規模での環境保全と身近な生活とのかかわりについて考え実践することをめざす内容とする。
- ◎自ら生活における問題を見出し、課題を設定して、問題を**主体的に解決**する学習方法を重視するようにする。
- ◎**適切な意思決定**ができるように意思決定のプロセスを学ぶとともに、決定に際しての価値判断に必要な**的確な資料等**を豊富に用意した教科書にする。

### 2. 対照表

| 図書構成・内容                 | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所     |
|-------------------------|---|----------|
| <b>第1章</b><br>生活のマネジメント | ・人のライフステージと発達課題および自分をみつめ、人生を展望することを取り上げました。(第2号)        | p. 4～5   |
|                         | ・主体的な人生を築くために適切な意思決定をおこなうことを取り上げました。(第2号)               | p. 6～7   |
|                         | ・ライフスタイルの選択について、時間、職業選択、役割などの要素と関連づけて取り上げました。(第2, 3号)   | p. 8～9   |
| <b>第2章</b><br>青年期の課題と自立 | ・青年期の特徴と課題について取り上げ、今の自分と将来の自分について展望できるようにしました。(第2号)     | p. 18～19 |
|                         | ・5つの自立及び生命への責任、共生社会と持続可能な社会の創造への意識をもたせるようにしました。(第2, 3号) | p. 20～21 |

| 図書の構成・内容                               | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所  |
|--|---|---|
| <b>第3章</b><br><b>家族・家庭生活のマネジメント</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の家族のようすについて取り上げました。(第1号)</li> <li>・家族の人間関係と家族に起こる問題とともに、コミュニケーションの重要性について取り上げました。(第1, 2号)</li> <li>・家庭の機能とともに、家庭生活と職業生活のバランスについて取り上げました。(第2, 3号)</li> <li>・家族・家庭に関する法律を取り上げ、法律の視点から家族・家庭について考えられるようにしました。(第1, 2, 3号)</li> <li>・男女共同参画社会, ダイバーシティの実現をめざす家庭と社会の創造について取り上げました。(第3号)</li> </ul>   | <p>p. 28～29</p> <p>p. 30～31</p> <p>p. 32～33</p> <p>p. 34～35</p> <p>p. 36～37</p>   |
| <b>第4章</b><br><b>子どもの生活と子育てのマネジメント</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの時期の人生における位置づけや大切さについて取り上げました。(第2号)</li> <li>・子どもの成長・発達と母体の健康において、生命の尊さを取り上げました。(第1, 4号)</li> <li>・子どもの成長・発達のようすについて取り上げました。(第1号)</li> <li>・子どもとのふれあい方について取り上げました。(第1号)</li> <li>・保育において基本的な生活習慣, 社会的な生活習慣を身につけることとともに、家庭保育と集団保育の果たす役割を取り上げました。(第2号)</li> <li>・子どもの遊びの発達, 児童文化財と伝承遊びについて取り上げました。(第5号)</li> <li>・子どもの心身の特徴, 健康と安全, 課題について取り上げました。(第1号)</li> <li>・子育ての親の責任とともに、自分の人生とのかかわりについて取り上げました。(第2, 3号)</li> <li>・子どもの人権と福祉について具体的に取り上げました。(第3号)</li> </ul> | <p>p. 44～45</p> <p>p. 46～47</p> <p>p. 48～53</p> <p>p. 54～55</p> <p>p. 56～57</p> <p>p. 58～59</p> <p>p. 62～63</p> <p>p. 64～65</p> <p>p. 66～69</p> |
| <b>第5章</b><br><b>高齢期の生活のマネジメント</b>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢期の人生における位置づけや大切さについて取り上げました。(第2号)</li> <li>・高齢期の心身の特徴, 健康と課題について取り上げました。(第1号)</li> <li>・高齢者の生活のようすや社会とのかかわり, 活躍のありよう, 高齢者福祉の理念と理念を実現するさまざまな施策を取り上げました。(第2, 3号)</li> <li>・高齢者等の介護には、その人らしさを尊重する支援が必要であり、その方法について具体的に取り上げました。(第2, 3号)</li> <li>・高齢者の日常生活を支える介助の方法について取り上げました。(第1号)</li> <li>・これからの高齢社会について取り上げました。(第3号)</li> </ul>  | <p>p. 74～75</p> <p>p. 76～77</p> <p>p. 78～79</p> <p>p. 80～81</p> <p>p. 82～83</p> <p>p. 84～85</p>   |

| 図書の構成・内容                         | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所  |
|----------------------------------|---|---|
| <b>第6章</b><br><b>共生社会をつくる</b>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生のありようについて、具体的に取り上げました。(第3号)</li> <li>・生活の問題と課題，リスクについて取り上げ，生活における共生の大切さと，共生を維持するしくみについて取り上げました。(第2，3号)</li> <li>・社会福祉と社会保障について具体的に取り上げました。(第3号)</li> <li>・共生社会の一員としてのありかた，地域共生社会とボランティア活動，ノーマライゼーションやユニバーサルデザインの考え方などについて，生活と社会の具体例から確認できるよう取り上げました。(第2，3，4，5号)</li> </ul>  | <p>p. 90～91</p> <p>p. 92～93</p> <p>p. 94～95</p> <p>p. 96～97</p>   |
| <b>第7章</b><br><b>持続可能な社会をつくる</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全について地球規模で考え，身近なところから行動することを取り上げました。(第4号)</li> <li>・環境保全の視点からライフスタイルや生活を改善することを取り上げました。(第4号)</li> <li>・持続可能な社会をめざす環境基本法や容器包装リサイクル法などの法律を取り上げながら，それを実現していくのは，私たち一人ひとりであることを意識できるようにしました(第4号)</li> </ul>   | <p>p. 102～103</p> <p>p. 104～105</p> <p>p. 106～107</p>   |
| <b>第8章</b><br><b>経済生活のマネジメント</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的に自立すること，働くことについて具体的に取り上げました。(第2号)</li> <li>・家計と社会のかかわりについて取り上げました。(第2号)</li> <li>・生活上のリスクへの対応，家計管理と資金管理，金融商品や投資など，生涯を見通した経済計画の重要性について具体的に取り上げました。(第1，2号)</li> <li>・契約について，18歳成人との関係を重視しながら取り上げました。(第1，2号)</li> <li>・キャッシュレス社会の進展にともなう購入方法や支払方法の多様化について具体的に取り上げました。(第1，2，3号)</li> <li>・消費者信用と多重債務，借金について具体的に取り上げました。(第3号)</li> <li>・消費者問題について，社会背景，法律，悪質商法の種類など具体的に取り上げました。(第1，2，3号)</li> <li>・消費者の自立とそれを支援する消費者保護と法律について取り上げました。(第1，3号)</li> <li>・生活情報と情報を判断するときに必要な能力について取り上げました。(第1号)</li> <li>・消費者の権利と責任ある行動を取り上げました。(第3号)</li> </ul> | <p>p. 114～115</p> <p>p. 116～117</p> <p>p. 118～119</p> <p>p. 122～123</p> <p>p. 124～125</p> <p>p. 126～127</p> <p>p. 130～131</p> <p>p. 132～133</p> <p>p. 134～135</p> <p>p. 136～137</p> |

| 図書の構成・内容                         | 特に意を用いた点や特色   | 該当箇所  |
|----------------------------------|---|---|
| <b>第9章</b><br><b>食生活のマネジメント</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な体を養うために食事の役割と生活リズムの関係を<br/>取り上げました。(第1号)</li> <li>・1日の食生活にそって課題をあげながら、食を見直す視<br/>点とその大切さを取り上げました。(第1号)</li> <li>・食文化について、家庭や地域、国際的な視点から取り上<br/>げるとともに、伝統的で豊かな食文化を継承・発展させる<br/>重要性について取り上げました。(第5号)</li> <li>・栄養素と食品と食事の関係について、高校生に必要な栄<br/>養素量や食事量と関連させて取り上げるとともに、ライフ<br/>ステージに応じた食生活において栄養バランスのとれた食<br/>事が重要であることを取り上げました。(第1号)</li> <li>・栄養素と食品の関係について、調理性とかかわらせて取<br/>り上げました。(第1号)</li> <li>・食品の選択、食品表示、食中毒への対応など、食の安全<br/>を自ら維持する必要性と技能について取り上げました。<br/>(第1号)</li> <li>・私たちの食生活と環境について循環・資源・調和の視点<br/>から取り上げました。(第4号)</li> <li>・健康の維持を目的に、食事を計画する意味と方法につい<br/>て具体的に取り上げました。(第1号)</li> <li>・食事をつくるのに必要な知識や技術について具体的に取<br/>り上げました。(第1号)</li> <li>・主食、主菜、副菜、汁ものと栄養素、食品の関係をつか<br/>んで、実生活にいかせるような実習題材を取り上げまし<br/>た。(第1号)</li> </ul> | <p>p. 142～143</p> <p>p. 144～145</p> <p>p. 146～149, p. 183</p> <p>p. 150～155</p> <p>p. 156～179</p> <p>p. 180～185</p> <p>p. 186～187</p> <p>p. 188～191</p> <p>p. 192～199</p> <p>p. 200～209</p> |
| <b>第10章</b><br><b>衣生活のマネジメント</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と被服のかかわり、現代の衣生活の状況について取り<br/>上げました。(第1号)</li> <li>・衣文化の成り立ちを衣生活の変遷等の歴史的視点や世界<br/>の民族服等の国際的な視点から取り上げました。(第5<br/>号)</li> <li>・快適な生活を支える被服の機能について健康維持、自己<br/>表現、社会文化的背景とのかかわりにおいて取り上げると<br/>ともに、ライフステージとの関係について取り上げまし<br/>た。(第1号)</li> <li>・被服材料と性能について科学的に取り上げました。(第<br/>1号)</li> <li>・被服による事故や健康障害などについて具体的に取り上<br/>げ、衣の安全や衛生を自ら維持する必要性と技能について<br/>取り上げました。(第1号)</li> <li>・被服の管理を効率的に科学的に営む視点を取り上げまし<br/>た。(第1号)</li> <li>・私たちの衣生活と環境について循環・資源・調和の視点<br/>から取り上げました。(第4号)</li> <li>・被服をつくる知識や技術について具体的に取り上げまし<br/>た。(第1号)</li> <li>・衣生活を計画的に営むことについて、SDGsの視点とかか<br/>わらせて取り上げました。(第4号)</li> </ul>   | <p>p. 214～215</p> <p>p. 216～219</p> <p>p. 220～223</p> <p>p. 224～225</p> <p>p. 226～227</p> <p>p. 228～229</p> <p>p. 230～231</p> <p>p. 234～243</p> <p>p. 244～245</p>                           |

| 図書の構成・内容                         | 特に意を用いた点や特色  | 該当箇所  |
|----------------------------------|--|---|
| <b>第11章</b><br><b>住生活のマネジメント</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの機能と住まい方について具体的に取り上げました。(第1号)</li> <li>・住文化の成り立ちを住様式の変遷等をふまえて取り上げました。(第5号)</li> <li>・住空間について、ライフステージやライフスタイルとの関係から考え、具体的にイメージできるようにしました。(第1号)</li> <li>・快適で健康で安全な住生活について取り上げました。(第4号)</li> <li>・事故や犯罪、災害などの具体的事例をあげながら、住の安全を自ら維持する必要性と技能について取り上げました。(第1号)</li> <li>・環境保全につながる住生活の管理について取り上げました。(第4号)</li> <li>・住環境とまちづくりについて、地域社会の一員としてのありようを具体的に取り上げました。(第3, 4, 5号)</li> </ul> | <p>p. 250～251</p> <p>p. 252～255</p> <p>p. 256～257</p> <p>p. 258～259</p> <p>p. 260～261</p> <p>p. 262～263</p> <p>p. 264～265</p> |
| <b>最終章</b><br><b>生活をデザインする</b>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業および生活との関連を、キャリア、ワーク・ライフ・バランス、自己実現の視点から取り上げました。(第2号)</li> <li>・自分らしい生きかたのライフプランについて取り上げました。(第2号)</li> <li>・家庭科で習得した知識や技術を活用して、よりよい生活を築くためにホームプロジェクトを取り上げました。(第3号)</li> <li>・よりよい地域社会を築くために、学校家庭クラブ活動を取り上げました。(第3号)</li> <li>・地域社会で活動することを取り上げました。(第3号)</li> </ul>   | <p>p. 270～273</p> <p>p. 274～275</p> <p>p. 276～279</p> <p>p. 276～279</p> <p>p. 276～279</p>                                     |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・各学習とSDGsを関連づけられるようにしました。[例：p.5小口のSDGsマーク] (第4, 5号)
- ・各分野を消費者の視点でみる課題を設定し、消費生活を多面的・横断的に取り上げました。[例：p.60～61 Skill up] (第2, 3, 4, 5号)
- ・生涯を通して確かな生活を築くために必要な経済計画について多面的・具体的に取り上げました。[例：p.120～121] (第2号)
- ・学習する分野に関連する職業を紹介し、職業について具体的に考えられるようにしました。[例：p.15 (各章末) お仕事紹介] (第2号)

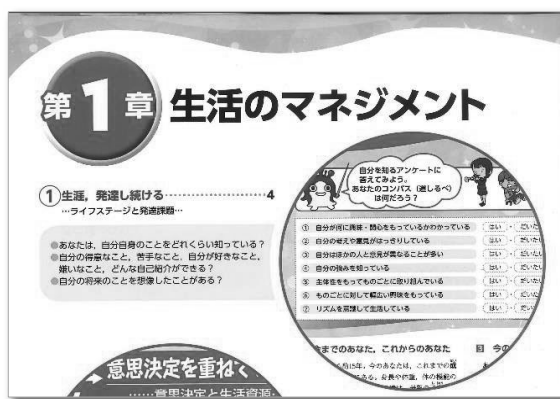
# 編 修 趣 意 書

## (学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

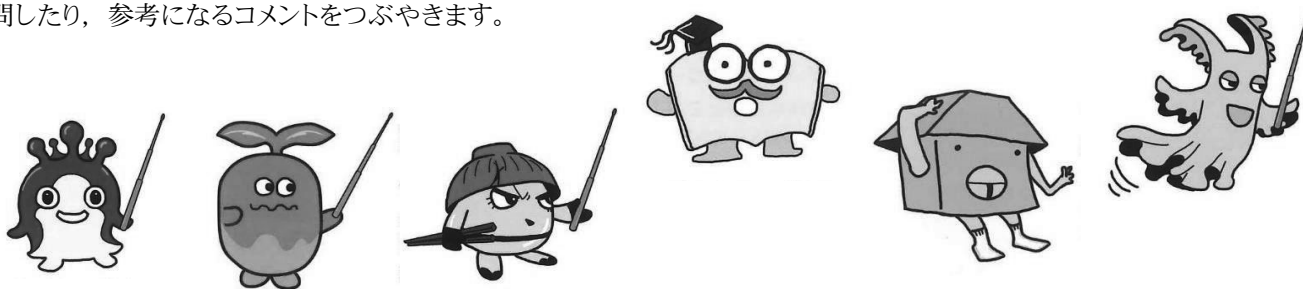
| ※受理番号      | 学 校        | 教 科  | 種 目  | 学 年 |
|------------|------------|--|------|-----|
| 102-271    | 高等学校       | 家庭   | 家庭総合 |     |
| ※発行者の番号・略号 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名  |      |     |
| 50 大修館     | 家総705      | クリエイティブ・リビング<br>Creative Living 『家庭総合』で生活をつくろう |      |     |

### 1. 編修上特に意を用いた点や特色

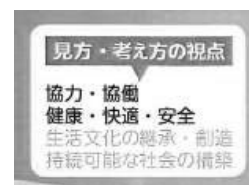
◎学習の内容を自分の生活に引き寄せることができるように、各章とびらに**問い**を設定しました。



◎学習意欲をもたせるために、**キャラクター**を配置し、発問したり、参考になるコメントをつぶやきます。



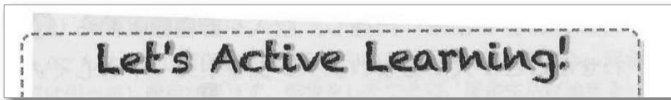
◎各学習項目の最初に、導入課題を設けました。家庭科の**4つの視点**も明示しました。



◎図表等の資料や用語解説の「**プラス+キーワード**」,  
「**コラム**」を設け、学習を深められる工夫をしました。



◎「**Let's Active Learning!**」「**演習にTry!**」を設定し、  
実践的・主体的・発展的学習につなげるようにしました。

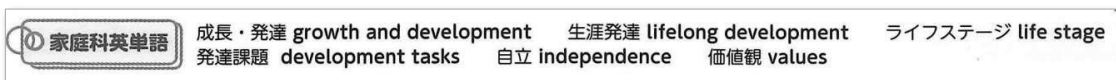


◎分野を「消費者教育」の視点で横断的に学習できる「**Skill up**」を設けました。



◎家庭科に関連する「**家庭科英単語**」を例示しました。

学習項目に「**関連するSDGs**」を表示して、SDGsへの意識を高められるようにしました。



## 2. 対照表

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容                    | 該当箇所    | 配当時数 |
|---|------------------------------|---------|------|
| 小学校・中学校と高等学校の学習のつながり<br>本書の使い方<br>家庭科を学ぶということ<br>家庭科の学び方  |                              | 口絵④～⑪   | 2    |
|   | <b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b>      |         |      |
| 第1章 生活のマネジメント<br>1 生涯, 発達し続ける<br>2 意思決定を重ねてつくる人生<br>3 どんな生き方をする?  | (1) 生涯の生活設計 ア                | p. 2～13 | 6    |
| 第2章 青年期の課題と自立<br>1 子どもからおとなへ<br>2 自立の達成をめざそう  | (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会 ア       | p.16～23 | 2    |
| 第3章 家族・家庭生活のマネジメント<br>1 家族って何だろう<br>2 わかってくれて当然?<br>3 生活マネジメントの拠点<br>4 法律から見る家族・家庭<br>5 ダイバーシティの実現をめざす  | (2) 青年期の自立と家族・家庭及び社会<br>ア, イ | p.26～39 | 8    |
| 第4章 子どもの生活と子育てのマネジメント<br>1 子どもの世界を知る<br>2 命の誕生<br>3 こんにちは, 赤ちゃん<br>4 好奇心いっぱい!<br>5 子どものいる暮らし<br>6 子どもの仕事は「遊び」<br>7 子どもの健康と事故<br>8 親になるということ<br>9 社会で子育て | (3) 子供との関わりと保育・福祉            | p.42～69 | 16   |
| 第5章 高齢期の生活のマネジメント<br>1 人生100年時代の高齢期<br>2 年をとると変わること<br>3 高齢期の生活を支える<br>4 介護を支える<br>5 これからの高齢社会  | (4) 高齢者との関わりと福祉              | p.72～87 | 10   |
| 第6章 共生社会をつくる<br>1 生活課題の乗り越え方<br>2 みんなで支え合うしくみ<br>3 とともに生き, 社会をつくる   | (5) 共生社会と福祉                  | p.90～99 | 4    |



| 図書の構成・内容   | 学習指導要領の内容                        | 該当箇所      | 配当時数 |
|--|----------------------------------|-----------|------|
|  | <b>C 持続可能な消費生活・環境</b>            |           |      |
| 第7章 持続可能な社会をつくる<br>1 地球が危ない<br>2 ライフスタイル再考<br>3 めざせ！ 持続可能な社会   | (3) 持続可能なライフスタイルと環境              | p.100～109 | 6    |
| 第8章 経済生活のマネジメント<br>1 生活を営むためのお金<br>2 経済のしくみを知ろう<br>3 お金と上手につきあう術<br>4 18歳で変わる消費生活<br>5 進むキャッシュレス社会<br>6 「お金を借りる」ということ<br>7 消費者トラブルの今<br>8 消費者の自立を支援する<br>9 情報社会を生きる<br>10 私たちが社会を動かす   | (1) 生活における経済の計画<br>(2) 消費行動と意思決定 | p.112～137 | 16   |
|  | <b>B 衣食住の生活の科学と文化</b>            |           |      |
| 第9章 食生活のマネジメント<br>1 体と心を満たす食事<br>2 イエローカードかも？<br>3 日本の食文化“WASHOKU”<br>4 栄養バランスのよい食事<br>5 炭水化物を摂る<br>6 脂質を摂る<br>7 たんぱく質を摂る<br>8 無機質を摂る<br>9 ビタミンを摂る<br>10 豊かな食卓に<br>11 食品のプロフィールを知る<br>12 食品を安全に取り扱う<br>13 持続可能な食生活<br>14 みんなでおいしい食事を<br>15 調理のワザを身につける | (1) 食生活の科学と文化                    | p.140～209 | 34   |
| 第10章 衣生活のマネジメント<br>1 人と被服のかかわり<br>2 和服を着たこと、ある？<br>3 快適な被服の条件<br>4 夏は麻、冬は毛の理由<br>5 健康と安全を守る被服<br>6 長持ちさせる手入れ<br>7 被服の3R, 実践してる？<br>8 オリジナルの被服をつくる<br>9 衣生活のPDCA  | (2) 衣生活の科学と文化                    | p.212～245 | 20   |

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容  | 該当箇所      | 配当時数 |
|---|--|-----------|------|
| 第11章 住生活のマネジメント<br>1 住まいを知ろう<br>2 日本の住文化を知ろう<br>3 住む人の生活と住まい<br>4 心地よく暮らすために<br>5 安全に安心して暮らす<br>6 住まいを長く使う<br>7 住環境を見つめてみよう | (3) 住生活の科学と文化                                    | p.248～267 | 12   |
|   | <b>A 人の一生と家族・家庭及び福祉</b>                          |           |      |
| 最終章 生活をデザインする   | (1) 生涯の生活設計 イ                                    | p.270～275 | 2    |
|   | <b>D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</b>                     |           |      |
| 問題を解決してよりよい生活をつくろう  |  | p.276～279 | 2    |
| 1日に必要な食品の種類と概量の例<br>災害への備え／災害時の心がまえ<br>全国の郷土料理  | B 衣食住の生活の科学と文化<br>(1) 食生活の科学と文化<br>(3) 住生活の科学と文化 | 口絵⑫～⑰     |      |
|   |  | 計         | 140  |